

第7回宗像市コミュニティ基本構想審議会議事録

平成18年5月31日

市役所302会議室

松山委員委嘱状交付（池野地区コミュニティ審議会委員交代に伴う）

《市長挨拶》

松山委員自己紹介（池野地区副会長）

太田会長《あいさつ》

事務局 前回審議会時の訂正箇所確認依頼。

委員 特になし

事務局 1ページから7ページについては、前回の審議会の際に確認はしましたが、特段のご指摘はございませんでしたのでそのままにしております。8ページは色々ご意見がありましたが、最終的には事務局で訂正をして、次回に提示との約束をしておりました。そのため、二重線や下線で表記しています。8ページについて「本市のコミュニティ」。コミュニティの変化を述べている部分で、新たなコミュニティと題目を入れておりましたが、内容はコミュニティの変化を述べているというご指摘から「古い共同社会（コミュニティ）の変質→崩壊→新たな共同社会（コミュニティ）の発生」という一般的な流れを市にあてはめてみると、この当時の本市の共同社会は変質し、崩壊しつつあるという、いわば過渡期にあったと言えます。しかし、本市の新たなコミュニティの芽は発生しつつありました。」と過渡期の状況に繋がるのが後段部分に繋がっていくというようにしております。ここの部分でご意見がありましたらいただきたいと思えます。まず8ページ目の部分についてお願いします。

本村委員 「これらの新たなコミュニティの芽を参考に、これまでの自治会（区・町内会）を単位とした地域づくりの仕組みを発展させていくことにしました。」とありますが、今後、自治会をどういった形に持っていくか。自治会は自治会の活動があると思うが。掲載しなくていいのですか？

事務局 自治会のあり方について構想か計画かで述べることになりましたが、構想の中で述べていくということでしょうか？

太田会長 これは計画の中で述べていくのではとありますが。コミュニティの将来がどういう風に進むか。当然自治会もコミュニティの一部でありますので、先で詰めていきたいとします。

本村委員 同意

事務局 計画に入りましたら自治会長制度がどのように廃止になってコミュニティに移行していったことも説明していきながらご意見をいただきたい。

太田会長 それでは9ページに入りたいと思います。

事務局 9ページ目中段の部分であります。言葉の表現等もありましたが、この部分については下線の通り「今後ますます需要の増加が予想される福祉、健康づくり、生涯学習の活動拠点の必要性が認識され、コミュニティ・センターの整備も検討することになりました。」と委員の意見をもとに変更しております。それに続きます「急激な社会変化や今後のまちづくり」を「急激な社会変化に対応したまちづくり」に変更。「地域の人々と行政がすることで住民が望むまちづくりができることになる」を「地域住民と行政とが協働したまちづくりが大切になってきました」と変更しています。また、「地域住民が望むまちづくりの方向性を明らかにしたコミュニティに関する推進計画を策定する必要が生じてきました。」と変更しております。

谷山委員 この文章で大変よろしいとします。

太田会長 それでは次に参ります。

事務局 前回提示の中から若干意見をいただきながら、コミュニティづくりの経緯というの中身の文言と一致しないのではとの意見からここにコミュニティに関する推進計画ということでは旧コミュニティ基本構想となるのですが、中の文章を若干変えております。また、今回は本文の中に表記をしておりました「コミュニティ・ワーキング会議」これは注釈で記載、また、理念の部分で「市民と行政、地域と行政、市民と地域といった」部分は、簡単に「市民と地域と行政」と記載。当時使用していた「協同」は意味合いが同じであることから混乱しないよ

うに「協働」にしております。市のコミュニティづくりの反省を述べた部分もありましたが最終的にこのようにまとめさせていただいております。

水島委員 10ページ5行目「地域の人々」は「地域住民」で統一するということではなかったでしょうか？

事務局 これは旧基本構想の文言を使用しており、委員で「地域住民」の方がよろしいとの意見があれば変更します。当時は地域の人々と表記しておりました。

岩木委員 地域住民でよいのでは。現在は地域住民の方が一般的で分かりやすい。

委員 同意

事務局 今後、旧基本構想の文言を引用する場合、どのようにしたらよろしいか。今現在ではない行政区長などの表現も出てくるが。

太田会長 直せない部分については仕方がないと思います。臨機応変に対応していただければ結構です。

委員 同意

事務局 コミュニティづくりの経緯の年表について、若干の文言の修正と年号の表記を変更しております。センターの整備状況について記載、総合計画の表現の統一、まちづくり交付金も規則の制定等もありますので新規に入れております。また、「宗像市市民参画、協働及びコミュニティ活動の推進に関する条例」を新規に入れております。以上です。

岩木委員 自由ヶ丘地区の一市民として言いたいのですが、確か平成7年だと考えますが、区長会連合会で「自由ヶ丘みらい21」を創設されております。この「自由ヶ丘みらい21」それに基づきコミュニティ運営協議会の規約等が作り上げられてきたと考えていますが、「自由ヶ丘みらい21」は重要な役割を果たしたと思いますので年表に加えてみてはいかがでしょうか？

事務局 本文にもありましたが、住民の活動組織としては南郷地区、日の里地区とあつたはずで。自治会を超えた活動の住民の組織を加えたほうが良いと考えるのならば、それぞれの地区の活動を加えていきたい。

岩木委員 3地区の活動は宗像市政においても大きな節目になっていると考えています。

太田会長 「自由ヶ丘みらい21」はコミュニティの組織の原型ということで入れていただきたいとの要望ですが、日の里地区はいかがでしょう？

柳瀬委員 日の里は昭和53年から広報紙等で以前から活動をしておりまして、それぞれの地区の思いがあると考えますので、なんともいえません。

水島委員 それぞれ地区の思いがあると思いますが本文に記載があるので経緯の中には必要ないと思いますが。

塩川（雄）委員 私がコミュニティという言葉をはじめて知ったのは、日の里地区の活動の中からでしたので、自由ヶ丘を入れるとするならば、日の里も入れたほうが良いと考えます。

谷山委員 私も入れたほうが良いと考えます。

太田会長 本文の中でなくても注釈として入れてみても良いと考えます。

事務局 8ページに記載をしておりますが、ここに注釈を入れてほしいとの事ですか？

太田会長 入れるとすれば年号です。

谷山委員 11ページにスペースがありますが、この部分に入れても良いのではないのでしょうか。

事務局 旧基本構想の中にあるのですが、自由ヶ丘は平成7年11月に発足したというはっきりしたことがあるのですが、他地区の部分について明確にいつ設立をし、活動を始めたというような記録はなく、明示できるのが懸念される。

岩木委員 自由ヶ丘地区代表としてきているわけでありまして、自由ヶ丘地区だから言っているわけではなく、宗像市が進めたコミュニティの活動として大きな役割をしてきたと認識しており、市の当局がどう考えているかを問うている。

事務局 市は平成10年から具体的にコミュニティ施策を進めてきたが「自由ヶ丘みらい21」を参考にした事は間違いありません。

立石委員 吉武地区は昭和56年度に県の指定を経て、地区としてコミュニティの推進を考え、行政区を回り説明会を行ってきた。そこで若い世代の力を借りようということで「新立山を守る会」の力を借り、推進をしてきた。

事務局 10ページの上段に住民組織と記載しています。また、旧基本構想の中でも大きく取り上げているが、「自由ヶ丘みらい21」の組織図を記載しています。これを参考に組織図を入れていくことは問題は無いのですが、いかがでしょうか。これをコミュニティ・ワーキング会議の注釈の前後に入れていきたい。いかがでしょうか。

事務局 本日回答をいただければ、会長と事務局で協議させていただきたい。

太田会長 はい。いずれにしても前向きに出していきたい。次12ページお願いします。

事務局 ここは前回ご意見いただいておりませんので、説明は、割愛させていただきます。ご意見はありますか。

水島委員 基本構想が出たときに「現在の」と記入すると文章的におかしくなるのではないかと。「これまでの」とかの表現がいいのではと考えます。また、後段の「新たな宗像市コミュニティ基本構想・基本計画を策定する必要があります」は、「ありました」と表現していないとおかしくなるのではないのでしょうか。

太田会長 時間的な流れの中でおかしくなるのではとの意見であります事務局いかがでしょうか。

事務局 大枠の内容と致しまして、了解していただいていることであれば、全体の文言の訂正はしていきたい。

太田会長 今現在、ここの「現在の」ということは分かるが、答申ができ来年、再来年になったとき、「現在の」というときに果たして分かるのかというご指摘だと思いますので、答申後でも現在でいいのかと水島委員の意見だと思います。

谷山委員 「本市が策定した」の前に年号を入れればいかがか。「平成9年に本市が策定した」などと年号を入れてみてはいかがか。

事務局 それでは、「本市のコミュニティ施策は、平成9年に策定」という表記にしたいと思います。

水島委員 コミュニティの将来像の部分に「相互扶助」と「地域分権」の部分のイラストを入れた方がいいと思います。こちらのほうが視覚的にも分かりやすいと思います。

太田会長 どなたかご意見ございませんか。なければ私から一点あります。コミュニティの将来像の部分であります。この後の勉強会で使用するビデオにもありますが、「希薄になりつつある相互扶助の意識の向上」の部分で「希薄になりつつある地域の親密性や相互扶助の意識の向上」と「地域の親密性」という言葉を入れていただきたい。

事務局 マッキーヴァーは「相互扶助」、「地域の親密性」はまた違う学者が唱えたことであります。いままで宗像ではこの親密性を使用したことが無いですが、この後の勉強会のビデオを見ていただき判断していただきましょう。

太田会長 同意

《休憩後、ビデオ上映にて勉強会》

太田会長 それでは、先ほど申しました「地域の親密性」この部分で議論をしていただきたいと思います。

谷山委員 赤間地区でも青少年の話し合いがありますが親密でないと話の中には入っていけない。親密性は大事な言葉と思いますので入れていただきたい。

事務局 平成9年から行ってきた中で、パンフレット等「相互扶助」「地域分権」を入れてきており、この部分は一番重要な部分であります。ここで「親密性」を入れるとなると委員の皆様で見せ方、表現の仕方等を考えていただきたい。イメージ図を含め、次回の審議会で検討していただきたい。

谷山委員 ここで懸念するのが個人情報とかプライバシーの件であります。親密性は地域でコミュニティを運営するにあたり、基本的な部分であり支えている人が地域

住民であります。このようなことを考えると親密性は切り離せないと思います。

太田会長 それではこの次までに皆さんのご意見を伺いたいと思います。事務局でも考えておいてください。

平田委員 親密性があまり強くなるのも問題。自分の地域で経験しているが、横柄になる可能性もある。

谷山委員 親しき中にも礼儀ありといいますが、最低限のマナーを踏まえた上での親密性は大事だと思います。

坂本副会長 難しいことだと思いますが、これを検討することはコミュニティのあり方を検討していくことになると思います。21世紀のキーワードとなっていくのではないのでしょうか。包み込むような精神の基盤となる緩やかな人間関係、核にある精神の位置付けのような感じがします。

谷山委員 坂本委員の意見に賛成です。「緩やかな人間関係」、「信頼の上に立った親密性」この様な表現であれば、十分にキーワードになると思います。

坂本副会長 組織や制度ではなく精神、心が大事だと思います。

事務局 どこにいれ、どのように表現するか。委員の皆様で出していただければと思います。

太田会長 それでは次回までに事務局にお知らせするという事で、会を終わります。